広報誌・月２回に〝変身〟を

全世帯に広報の表紙

出席者　松木二郎（里改田）松木美得子（大埇）橋田益子（片山）山崎英子（下未松）柴田香（後免）
（広報委員）山本尚一・藤本茂樹・山崎俊雄・岡崎俊一・浜田弥芳・東村達夫

市民と市政のかけ橋

望まれる広報の充実・強化

広報は市民と市政を結ぶかけ橋であるといわれ、行政が複雑多岐にわたるとともに、ますます増大してくるにつれ、広報、公聴の重要性が叫ばれているときでもあります。

「広報なんこく」は、昭和三十四年、南国市の誕生とともに生ぶ声をあげ、今月号で百三十七号になりました。

きょうは、広報誌を五年以上保存している人たちにお集り願って、広報の問題点や今後のあり方などについて、ご意見をうかがうことにしました。

赤線で真っ赤な広報

□……日頃から広報には、いろいろご協力をいただいています。

広報に対する市民の関心をより深め、よりよい広報をつくるために、いっそうの努力をしたいと思っています。そして、「広報なんこく」から、すばらしい南国市が発展することを願っています。

はじめに、広報誌を保存しはじめたきっかけからおうかがいしたいのですが……。

▼　読んでいるうちに面白いので集める気になりました。年をとると一回読むだけでは、なかなか憶えられないもので……。（笑い）

▼　連絡員をしていますが、広報がくると、まず自分の箱に入れてそれから部落民にくばるように習慣づけています。

▼　私は小説が面白くて集め始めたのがきっかけです。それから自分の写真が広報にのったことが、うれしくて……。（笑い）

▼　やはり自分の写真とか文章がのることはうれしいものですね。これから、おおいに写真をのせなきゃいかんですね。（笑い）

□……松木議員さんは、広報誌へ赤線を引いて勉強されているとのことですが……。

▼　市政は市長や議員だけのものではなく、市民一人一人のものでなければなりません。そのためには市政の状態を市民一人一人によく周知さして、市民の総意を市政に反映することが大切です。

その役目をするのは、広報のほかにないと思います。

また、最近は市政が非常に複雑多岐にわたってきましたが、広報がよく市政の要点だけをまとめているので、これを勉強の材料に使うべきだというところから集めています。

▼　私は家庭にいますが、市は大変広いので、あまり遠くのことは知らないことが多いわけです。そこで広報をみると地域のことや市政のことがよくわかるので……。

松木美得子さん

□……ところで、読んだあとで綴り込むのが大変だと思いますが、保存法といったものは……。

▼　袋をかまえておいて、読んだらすぐ入れるようにしています。

家族の多いところは困ると思いますが、私は主人と二人だけですので……。

▼　私ははずかしいですが、はり針でとおして集めています。

綴るための穴をあけていただくと、いっそう保存しやすくなると思いますが……。

魅力ある保存用の表紙

▼　私は黒表紙を買ってきて綴っています。こんど広報で一年以上保存している人に表紙をくれるというので、その表紙が魅力で申し込んだわけです。（笑い）

表紙があれば保存する人も、もっともっと多くなるでしょうね。

表紙に綴りひもをつけて、一組五十円ぐらいでできると思います。全戸配布だと六十五万円になりますが、きっそく実現してもらいたいものです。

▼　ぜひ、そうしてほしいと思います。（全員同感）

▼　全戸配布となると金額がはってくるので、予算の目途がたっていません。表紙の裏に広告をとってやろうかという話もありましたが、公共の機関が広告をとることには問題の多いところで……。

そこで、表紙の裏に、選挙のてびき、税金の納期、ごみ収集の日時と場所、予防接種の予定、戸籍、住民登録の手続きなど、市民が知っていなければいけない基本的なものをすり込んで、各課で少しずつ予算をだしあって表紙をつくる計画をしています。

市民ぐるみで町をきれいにしよう

毎月第一日曜日は清掃の日で！

連絡員の交替は四月に

□……広報は毎月一日発行で、市を発送するのが前月の末です。翌月の一～二日には理絡員まで行き数日のうちに市民の手にわたるはずですが……

▼ 連絡員が月番で毎月かわるので、こないこともあるようです。

▼ 一カ月とか、半年、一年でかわっているようですね。一年でも正月と四月との交替があって……

配達を早く、確実にするためには、一年で四月一日に交替するように統一してはどうでしょう。

▼ 私もときどきこないことがあって、市役所へもらいに行ったことがありますが、やはり交替の多い四、五月にぬかるようです。

保存してためになること

□……広報も百三十六号になりましたが、保存していてためになるようなことは……。

▼ こくち・ばんが有効に利用できます。議員という立場から、市民の相談を受けることが多いわけですが、さっそく広報をとりだして……（笑い）条例をみているとなかなか時間がかかります。そこで広報の必要なところに赤線を引いておいて、いつでも利用できるようにしているわけです。

▼ 広報は全戸にくばっているので知ってくれていると思いますがまんがい知っていない人が多いようですね。

▼ 家庭でも一部の人だけしかみていないのでしょうか。若い人よりおとしよりがよくみているようですよ。広報にでていたから、手続きにきましたという人が随分あるようですね。

柴田香さん

▼ この間、新年度の予算の説明をたのまれてやりましたが、予算内容は広報が円グラフでくわしく分析してくれているので、非常にわかりやすい。最後に『私の話は自己流のほったらでなく、広報にはっきりでていますよ。』というと信用されます。「広報へ出ちゅうきにまちがいない。」ということになる。（笑い）

まだまだ、広報をみていないという感じがしますね。

▼ 広報の広報をしなければいけませんね。（笑い）

考えさせられたごみ問題

□……みなさんは広報に関心をもたれ、よく読んでくれていると思いますが、どんなところから先に読みますか。

▼ 私ははじめからこつこつ読みます。何も知らないものですから全部読みます。（笑い）

▼ クイズが面白いですね。

▼ 毎月八十通ぐらいの応募があります。親子の対話の場として活用していただければと思います。

▼ マンガだけみて、あとは読まない人も大分いますね。（笑い）

▼ 職員の異動がよくわかります。あの人はどの係に行ったとかいうことで……。

橋田益子さん

▼ こんどの古ビニール戦争という企画はなかなかよかったですね。

▼ この写真をみると、ビニールというと百姓さんの責任のように思っていて、自分自身の台所から出ているホリやビニール類は関係ないように思っていました。

ところが人ごとではない。自分たちの問題だ、自分たちの気をつけなければならない問題だと思いましたね。

□……ここで参加者は、ごみ問題について二十分ぐらい熱心に話し合われました。いま市民の関心がごみに集中しているときだけに、本題の広報のテーマはそっちのけで……。

標札や標語などにはPR、衛生委員のあり方、用をきれいにしている善行者の表彰、上からの押しつけでなく、お互いの監視で注意、そして大きく住民運動として盛りあげ、まちをきれいにする体制づくりをしなければなどの意見がありました。

どんなに市政に反映したか

□……写真や文章の表現、紙面のレイアウトなど広報の編集はなかなかむつかしくて、各市町村で悩んでいる問題です。できるだけ読みやすく、見やすい広報を心がけていますが、限られた紙面を有効に生かすため、ご意見を参考にして再検討したいと思います。

これからはどんな企画のものがほしいか、みなさんの注文は……。

▼ 先生が生徒に聞くようなもので……（爆笑）なかなかよくできていると思いますね。予算の解説は最高よかったと思います。

▼ たて書きとよこ書きのまじっているのも、目がかわって読みやすいと思いますよ。ただ、全部をよこ書きにしたら読みにくくなると思いますが……。

▼ 随想やコント、短歌、俳句などお茶間的な記事もあってよいでしょう。かたいなかにもやわらかさがあるというのも、読みやすいのではないでしょうか。

▼ 婦人会の市政会議も、ことし十二回となり、毎年広報にとりあげてもらっていますが、もう少し重点的にとりあげてほしいですね。

また、毎年続けてやっているので、市政にどんなに反映されているかものせてほしいと思います。

□……まい月、座談会形式をとりそのときどきの問題をとりあげ、市政に対する市民の質問、意見を聞き、市民とともに考える場をつくっています。地区の要望がありましたら、お知らせ願いたいと思います。先ほど、広報に自分の写真がのっていてうれしかったという声がありましたが、広報への愛着がわいてくるのではないでしょうか。

▼ かくれた善行など、いいことをほめることですね。悪いことはどんどん発表されます。しかしいいことをどんどん発表して雰囲気に大きくも、悪いことをむさえることも大切ですね。

どうする議会の記事

□……ある会合で議員の出欠をのせたらという声がありましたが。

▼ 旧村のとき出欠を出したところ、みごと家を出たものの競輪や競馬に行っていて、奥さんに「たこられた」ことがあったそうです。（爆笑）

▼ 婦人会で議会を傍聴しましたが、もっと多くの人が傍聴して市議会の内容を知ることが大切ですね。女の人が行くと、かえって議会がスムースに行くという声があります。

山崎英子さん

□……議会関係は、予算、条例の改正などしかお知らせしていません。一般質問は、なかなかとりあげにくくてやっていませんが、全国的に議会関係は市民にお知らせする義務があるということで、独自の議会だよりを発行するところが多くなっていますね。

▼ 質問が多くなって、三十人全員がやりだすのではないか。

▼ 大所高所から大事なものをとりあげ、あとはカットすることになりますが、自分のいったことがのっていないということで、いろいろもめた例もあるようですよ。

各課のチラシを広報へ

□……広報は市政と市民を結ぶかけ橋であるといわれます。まだまだ改善していかなければならないところが多いと思いますが……。

▼ 最近、市政が非常に複雑化されて、いろいろなチラシが各家庭にくばられています。とくに公害衛生、年金、福祉などのチラシが多いわけですが、広報誌でさえみられていないので、ほとんどチラシは目を通していないのではないかと思います。

ここらあたりで、広報を毎月二回発行にして、いろいろのチラシの分を、こくちばんにとりあげてみてはどうだろう。

▼ 日本一の山口県徳山市では、月三回発行しています。

各課から出るチラシを全部あつめて広報がやっているわけですが、人口十万人、予算八百四十二万円、広報担当者四人というめぐまれた体制でやっています。

▼ 全国的に月二回発行になっているようですね。あとは予算と人が問題になりますが、広報にのせれば各課の印刷代はいらなくなるので、かえって効率的で安あがりにいくでしょう。

松木二郎さん

▼ 広報の予算をみてみると、二百三十万円しかない。このうち広報に関係ないものを除くと、二百万円ぐらいだと思いますが、少ないですね。

広報委員さんも十二人いると聞いていますが、職員の出張旅費と一諸で年間十万円では研修もできないでしょう。

これほど市政と市民に直結した広報はないと思うし、むしろ人件費などと同じように義務的な経費として強化すべきだと思います。

がんばらなくっちゃ

▼ いろいろのせたいものが多いと思いますが、紙面をみると、なにかせまいところへ圧縮された編集のように感じます。

▼ 月二回にすれば市民にもなじみが深くなり読んでくれると思います。そうすれば市長も喜んでくれると思いますよ。

▼ 現在のような状態ですと、連絡員はだれもやるのがいやになるし、やる人がなくなるのではないでしょうか。チラシを廃止して、月二回の広報にすれば、連絡員も月二回配達ですむので、大変ラクになると思います。

□……きょうは広報委員会にハッパをかける会になりましたが、みなさんの貴重なご意見を生かしてよりよい広報にしたいと思います。とくに、金戸への表紙の配布、月二回発行については、全力をあげて実現したいと思います。

長時間ありがとうございました。

□……

五年以上の保存者に、野村花子さん（南小鹿）が申し出られました。以上で、一応しめ切ります。

広報の広報

■ 広報の編集方針

じっくり市民と話し合い、市政の諸問題を説くとともに、市民の声を正しく聞き、市政に反映させることが広報の役目です。そこで次の編集方針でよりよい広報のためがんばっています。

①みんなが広報マンとして積極的に活動しよう。

②年間の編集計画をきめて、きめ細かな編集をしよう。

③秘密主義を排除し、不偏不党、公益にもとずき、市政の動きをタイムリーに知らそう。

④市民の市政への理解を深め、市民の協力を得るようにしよう。

⑤コミュニティ（近隣社会）をのばし市民の自治意識を高めよう。

⑥こども、青年、婦人、老人など市民にどしどし広報の中に参加してもらい、親しまれる広報にしよう。

⑦解説記事を中心とした、企画性の豊かな広報誌にしよう。

⑧わかりやすく、面白く、利用度の高い広報にしよう。

⑨押しつけでなく、記事も意見も公平にとりあつかおう。

⑩毎月１回、広報座談会を開き、市民の意見を聞く会を開こう。

■ 藤本副委員長が全国表彰

広報委員会の藤本茂樹副委員長が、広報功労者として、日本広報協会から表彰されることになりました。

旧村時代から実に24年間、抜群のアイディアと情熱をかたむけてこられた功績が認められたものです。

■ 広報誌、県コンクールで推せん

高知県下の広報誌コンクールが、このほど行なわれ、「広報なんこく」が市の部で推せんに選ばれました。

受賞したのは、昨年の７月号（No.125）でした。なお、町村の部では、窪川町が推せんに決まりました。

■ 市庁舎を16ミリ映画に

郷土を紹介する映画「南国市」につづいて、市庁舎の撮影にとりかかっています。カメラマンは田中隆夫（中央福祉館長）さんにお願いしました。